

【概要】

住宅ローン利用者の実態調査

【住宅ローン利用予定者調査(2023年10月調査)】

I 調査の概要

今後5年以内に住宅ローンを利用して住宅を取得する計画がある方を対象とし、希望する住宅ローンの金利タイプ、住宅取得に向けた意識や行動等について調査を実施し、その結果をとりまとめたものです。

(参考) 調査実施時期：2023年10月27日～11月2日、回答数：1,500件

II 調査結果の主なポイント

〈〉は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 希望する金利タイプは、「変動型」が約4割、「固定期間選択型」が約3割、「全期間固定型」が約3割 〈p. 3〉

- ・「変動型」：39.7% (2023年4月調査38.3%)
- ・「固定期間選択型」：33.7% (同33.1%)
- ・「全期間固定型」：26.5% (同28.7%)

2 今後1年間の住宅ローン金利について、住宅ローン利用予定者の5割以上が「現状よりも上昇する」と考えている（前回調査と比べて5.1ポイント増加）〈p. 4〉

- ・「現状よりも上昇する」：53.3% (2023年4月調査48.2%)
- ・「ほとんど変わらない」：20.6% (同26.5%)
- ・「現状よりも低下する」：8.5% (同8.1%)
- ・「見当がつかない」：17.6% (同17.3%)

3 今後1年程度を「住宅の買い時」と考える割合は約3割で、主な理由は「住宅ローン金利が低水準だから」「住宅価格が値上がりしそうだから」 〈p. 6、p. 7〉

〈今（今後1年程度）の住宅の買い時意識〉

- ・「買い時と思う」：26.1% (2023年4月調査28.0%)
- ・「買い時と思わない」：31.3% (同31.9%)
- ・「分からない」：42.6% (同40.1%)

〈買い時と思う理由〉

- ・「住宅ローン金利が低水準だから」：58.4% (2023年4月調査71.0%)
- ・「住宅価格が値上がりしそうだから」(注1)：49.5%
- ・「税制のメリットが大きいから」：25.3% (同27.1%)
- ・「金融緩和政策が終わりそうだから」(注2)：12.8%
- ・「住宅取得促進策が実施されているから」：9.9% (同17.6%)

(注1) 前回調査での選択肢「住宅価格が安くなったから」から変更

(注2) 前回調査での選択肢「金融緩和政策が継続しているから」から変更